

づくり活動を展開していきたいと考えております。

○鈴木富美子議長 12番、金子豊美議員。

○12番 金子豊美議員 最初に、老人福祉センター関係でありますけれども、財政的な面とか厳しいというのは重々私どもも承知しております、「くるんと」の場合はPPPですか、新しい方法を取り入れたりしながらやってきたという経過もありますので、ぜひ現在の状況では、とにかく心配な部分もあるということですので、様々な議論を交わしながら、よい方法を見つけ出していただいて、できるだけ早く取り組めるよう、ご尽力いただければとお願い申し上げます。

それから、自動バス運行ですが、私も一回乗せていただいて、実際に乗って担当者の方からいろいろお話をお聞きしますと、ああ、こういうふうなことなんだというのは分かりました、ある程度の部分は。ただ、コストとかそういった部分については、古川先生からお話あったようなことを聞いてもよく分からない部分がありまして、現在はあくまでも実証運行の経過を見て、いろいろ考えていくという市長の答弁いただきましたので、今後も慎重に、そのコスト関係も含めて取り組んでいただきたい。長井の実証運行が成功することを、まず期待したいなと思っているところであります。

それから、コミュニティセンター関係であります。現状は大体分かりました。先ほど、4つの地区で地域づくり計画を見直ししているということですが、どこの地区だか教えていただければありがたいのですが、よろしくお願ひします。

○鈴木富美子議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 すぐ出てこないのですけれども、豊田と致芳と西根と伊佐沢は、今、作成中ということで確認しております。

○鈴木富美子議長 12番、金子豊美議員。

○12番 金子豊美議員 今人材交流などもしていただきながら、職員の育成、養成等やっただいております。地域になじむまでは時間がかかると思うんです。職員が地域の人のみず顔を覚える、覚えてもらう、それも一つ大切なことだと思っております。ぜひ今後も情報交換等を徹底していただきながら、コミュニティセンターの職員が安心して働けるような環境整備に努めていただければと思います。

車を配置していただいたということで、送迎、それから職員が役所に来るときにも利用できるということで、すごく職員も喜んでおりました。ただ、ふりは公用車、ここから借りてくるという状況で、その辺、ほかの地区と違うんだという職員のお話も聞いたわけでありまして、その辺は、あるものはあるもので効率よく利用しながら、ぜひ今後もコミセンのほうに目を向けていただきながら、活動にご支援などをいただければと思います。

以上で私の質問を終わりますが、ぜひ、今日質問させていただいたことが、今後のいろんな活動に役立てばよいなと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。以上で質問を終わります。

今泉春江議員の質問

○鈴木富美子議長 次に、順位7番、議席番号15番、今泉春江議員。

(15番今泉春江議員登壇)

○15番 今泉春江議員 日本共産党の今泉春江でございます。

大きく2つについて質問します。

最初の質問です。米坂線復旧検討会議開催についてです。

9月議会でも米坂線の復旧について質問して

おりますが、今回、第4回米坂線復旧検討会議が開催されましたので、市長と地域づくり推進課長に質問いたします。

2022年8月豪雨で被災し、一部区間での運休が続くJR米坂線について、11月19日、新潟県関川村で山形、新潟両県と沿線7市町村、JR東日本による第4回米坂線復旧検討会議が開催されました。

報道によりますと、JR東日本は復旧後の運営方法で上下分離方式を採用した場合の自治体側の負担額を試算しました。それによると、運行を担う主体上部と鉄道施設の維持管理などを担う主体下部を分け、運営経費に基づく地域負担額の年平均額を示しました。小国と坂町間が4億7,000万円から6億1,000万円、小国から今泉間が8億1,000万円から10億9,000万円と試算しました。最も少ない場合でも12億8,000万円と示されました。

新潟、山形両県は鉄道による復旧を目指していますが、各自治体は非常に重い負担との認識を示しています。会議に出席した山形県の職員は、鉄道としての復旧を第一の目標とし、上下分離や第三セクターなど可能性を検討していく必要があると述べており、さらにそれを受け吉村知事は、財源確保が大きな問題とし、関係自治体と具体的な協議を進め、国に財政支援を求める考えを示しました。

また、JRは復旧には86億円で5年ほどかかると示しています。

今後、自治体での議論の進展を期待したいと思いますが、吉村知事の言うように、まず国に財政支援を求めることが基本だと思います。

前回の質問でも言いましたが、国に強く求めていくためにも、関係団体などへの働きかけが重要だと思います。小国出身の国会議員や、新しく復興副大臣になった国会議員も地元にあります。関係自治体として県とも協力し、国への財政支援など働きかけをしてほしいと思います。

そこでお聞きします。JRが上下分離方式での運営試算を示しましたが、自治体として鉄道をどう考えていくのかが問われていると思います。本市としても、吉村知事の言うように、国に財政支援を求めるための運動が重要と思いますが、改めて市長のお考えをお聞きします。

また、JRが示した試算による本市の負担はどのくらいになるのでしょうか。JR側の試算により、復旧へ向けた具体的な議論が始まったと思います。米坂線復旧検討会議での各自治体の反応、意見などをご報告ください。

先日、県議会地域議員協議会が開催され、置賜では、相田光照委員が米坂線の復旧に向けた絆まつりの成果を質問したことが新聞に書かれておりました。このように関係団体と住民が一緒になった運動を重ねていくことが重要と思いますし、それが自治体間の協議を進展させていくものと思います。

JRの試算を受け、本市として自治体間の協議を今後どう進展させていくのか、お考えをお聞きします。

次に、長井市中央コミュニティセンター、市民体育館の改修について質問します。

交流センターふりは、長井市民体育館を備えた施設です。道の駅に隣接しており、町なかということで、自転車でも行ける便利な場所にあります。会議室、視聴覚室、調理室、和室、軽運動室などの利用ができます。入り口のホールは談話スペースがあり、無料のドリンクサービスもあり、少人数での打合せなどには無料で使えます。

また、長井市民体育館は、卓球、バドミントン、バウンドテニスなどの団体が定期的に利用しています。バスケットコートやバレーボールコートも備えていますので、スポーツ少年団、学校などや幼稚園などでも利用があります。

このように、スポーツの向上や市民の健康づくりの場として多くの市民に利用されています。

市民ひとりスポーツとして健康づくりを提唱する本市にとっては重要な施設となっています。

私は、10年ほど前までこの体育館を使い、バドミントンを週2回しておりました。健康づくりとして20年ほど続けてきましたが、一番はスポーツを通して仲間の方々と楽しく運動ができた施設であったと感謝しています。

ところが、現在の市民体育館は、長年の間、雨漏りか続いており、屋内施設としての役割が機能なくなっています。私が通っていたときも雨漏りがありましたが、最初は雑巾などでも大丈夫でしたが、だんだんひどくなってきて、バケツなどで雨漏りに対処していました。その後、議員となった10年ほど前にこの雨漏りの改修を市に2度ほど要請しましたが、雨漏りの箇所が判明せず、屋根全体を改修する見積費用も大きいという理由で改修はされませんでした。体育館へ行く渡り廊下の雨漏りは一度改修されましたが、また雨漏りが発生しています。私は当時からずっと気にかけておりましたが、その後、本市の公共施設建設が続いており、改修の優先順位もあるのかなど、ずっと案じていました。

このたび、議会と市民との意見交換会で、市民の方から体育館の雨漏りを何とかしてほしいとの意見が出ました。それをお聞きし、早速市民体育館を見に行きましたら、私が利用していたときよりも雨漏りはさらにひどくなっていました。

また、体育館を利用する市民から、施設運営者にも苦情が届いています。

屋内施設なのに雨天中止ですと言わなければならないようでは、体育館としての役目を果たせません。

資料を配付しております。雨の日はビニールシートを敷き、大きなバケツ、鍋などを置き、屋根からの雨水を毎回受けています。大きなバケツや鍋が20個から30個ほど用意されていま

た。階段の踊り場も大きな入れ物で雨漏りを受けています。一度改修した渡り廊下も、また雨漏りが発生しています。床がぬれていすると体育館は大変危険ですので、けがなどないかも心配しています。

さらに、体育館のトイレでは、窓のサッシにたまった雨水をじょうろのようなもので受け止め、ホースで手洗いに流しています。2階の雨漏りは1階の部屋に影響が出てしまいますので、何とか2階で止めるために職員の方が考えたのですが、涙ぐましいような手だてに頭が下がりました。毎回バケツや鍋にたまった雨水を、職員の方々が処理するのも大変な苦勞があります。

また、雨漏り以外にも改修が必要なものがあります。体育館の照明が半分ほど切れております。スポーツによっては照明が必要なものもあります。先日、体育館を使って集会を行ったが、暗くて大変だったと聞いています。また、雨漏りで漏電などの心配もあります。

体育館を利用する団体は、ほとんど減免などで使用料は発生しませんが、無料だから仕方ないとは思いません。

そこで、まず市長に市民体育館の雨漏りの状況を見ていただきたいと思います。長井市民体育館の雨漏りの現状を踏まえ、雨漏り、体育館照明、2階トイレの雨漏り、渡り廊下の雨漏りなど、施設全体の改修が求められていると思います。改修計画を伺います。

その中でも、体育館の雨漏りは緊急性が高いと思います。どこからどのように、いつから改修できるのかを伺います。

以上、壇上からの質問といたします。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 今泉春江議員からは、2項目にわたってご質問、ご提言をいただきました。ありがとうございます。

まず最初に、米坂線復旧検討会議についてお答えを申し上げます。

今泉議員から、2点にわたってご質問、ご提言いただきましたけれども、まず最初の(1)の、JRが上下分離方式での試算をしたが、吉村知事の発言のように、基本は国に財政支援を求めるのが重要と思うが、考えはどうかというようなご質問でございます。

議員からありましたように、JR米坂線は観光、ビジネス、通学、通院、買物等々、あらゆる分野で必要とされている貴重な、特に県と県を結ぶ路線であると認識しております。新潟市、山形市、仙台市に至る広域的な移動手段としても、日常利用はもとより災害時のリダンダンシー機能として重要な役割を果たしており、誠に重要な必要不可欠な存在と考えております。

米坂線が不通になりまして2年半以上は経過しまして、このまま代行バスでいいのか、あるいは、このまま代行バスのほうがいいのではないかというような意見もあるということは承知しておりますが、鉄道が自動車と決定的に違うのは、バスやトラックが単独で走っているのに対し、鉄道は社会のシステムの一部として機能しており、これまで線路もまちも社会的な仕組みとして一体で存在していることから、一度廃線になってしまうと、沿線の地域そのものが衰退してしまうと考えております。

そうした米坂線の鉄道としての役割や重要性については、地域住民、沿線自治体、鉄道事業者等、関わっている皆様が認識しているものの、近年は沿線における自家用車の普及や高規格道路の整備、施設設置もロードサイドなど、地域社会が自家用車を中心としたライフスタイルになっていて、米坂線の利用者が減少している状況です。

JR東日本では、鉄道の特性である大量性が発揮できるような状況が見込めず、JR単独運営を前提とした復旧は難しいとしております。そのような状況により、JRによる鉄道復旧を基本にしながらも、早期の鉄道復旧を実現する

には上下分離方式の検討も必要だと、なおかつ第三セクターによる運営なども検討しなきゃいけないということを吉村知事が発言されておりますので、そういった方向で、本来であれば、もう少し私ども自治体間で意見交換も必要だと思っております。

しかしながら、今泉議員からありました、このたび示された上下分離方式の際の地元負担額が約17億円ですので、これが毎年経常的に発生する費用と考えますと、地元だけで負担するのは大変困難ですので、当然これはまた復旧とは別に、国の財政支援は必要不可欠と考えます。

それで、昨日の鈴木一則議員のご質問にもお答え申し上げましたけれども、今、問題になっているのは、災害の復旧ということについては事務局を、事務局といいますか、米坂線の期成同盟会の事務局、会長が小国町長さんで、そして恐らく吉村知事と、一昨年8月の災害の後、いつ行ったかというのは詳しくは聞いておりませんが、最終的には斉藤国土交通大臣のほうに要望に行ったと。その際に、大臣のほうからは、普及は全力で国がやりますと言ったということから、そういうふうに大臣が言ったのだから、もうそれでいこうということで、実は私どもの意見は言う機会がございません。ですから、JR新潟社のほうには何回かその要望活動に行っております。その際も、同じ文案で早急に工事、復旧をしてくださいという文案でございました。それらの文案については、私どもは残念ながら関われないと。ただし、小国町長からすれば、大臣から約束をいただいたのだから、もうそれで貫くしかないわけですので、それはごもっともだと思っております。

ところが、実際にはJR東日本が所有している鉄道路線であり、運行もJR東日本がしているわけですね。そのJR東日本のほうが、復旧した後の運行について非常に難色を示しているわけですね。ですから、その具体的な方法が決

まらないと復旧はしないという考えなんですよ。ね。

新潟県知事と吉村知事が福島県のJR只見線を視察、あるいはその説明を聞いて、そして、そのときの一つの例として、山形県としても新潟県と連携して復旧する場合のスキームとか、あるいは運営のやり方、これを検討しなきゃいけないということで、只見線の場合は、国が3分の1、そしてJR東日本は3分の1、そして地元自治体が3分の1という負担だったそうです。そのうちの地元負担の3分の1の7割を福島県が持ったと、残りの3割を、あそこ沿線が非常に多くて14自治体ぐらいあったと思うのですが、それで分担したということだったようです。

あとは、運営については、只見線についてはJR東日本さんがそのまま継続してされているんですね。ただし上下分離方式ということで、設備の部分、線路、信号、あるいは踏切とか、様々なそういった施設については上下分離方式ということで、2分の1を国土交通省の補助事業で、2分の1を地元で負担するやり方でやっているということでありまして、吉村知事のご発言を聞きますと、上下分離方式というのは、これはもう致し方ないと。ただ、運営については、JR東日本が難色を示している以上、できるだけ早く復旧するには、運営について第三セクターの運営を考えなきゃいけないということでそれを発言をされたと報道では示されています。

議員のほうからは、国にしっかりと要望していくべきではないかと、これはそういったことですから、実際本省に要望って、我々、声がかからないんです。JR東日本の新潟支社の要望については、声がかかって、私が駄目な、まあ今まで何回だったかな、3回ぐらいあるんですが、うち、副市長に行っていました。ただ、米坂線の沿線では首長おろか担当者も来な

い自治体もあったそうです。それだけ我々も働きかけしてるんですが、まずは沿線で、ちょっと腹を割ってどうしたらいいか話ししましょうということを行っているんですが、事務局としては時期尚早と考えているのではないのでしょうか。ですから、私は残念ながら、その期成同盟会の中で意見が言える立場ではないんですね。ただし、要望会があったら、我々も一員ですから、私行けないときは副市長、あるいは担当者の総務参事ということで行っております。実態はそういうことです。

ですから、私どもとしては、実際復旧会議というのはJR東日本と、あとは国土交通省と、それから県のほうでつくっている会議に我々は参加しているわけですが、そういうようなことで、例えば署名活動なども実際我々に声がかからないんですよ。あれって自治体で関わっていないのではないですか。絆まつりは山形県が主体となってやっていたらいいと。2回ほどやって、米沢市と、それから小国町でやっていると思いますが、それに山形県の置賜総合支庁のほうでいろいろ企画して、沿線に声をかけて、我々はもちろん応援して一緒になってやっているということなんです。そういうことで、ちょっと大臣のほうから、国が責任を持って復旧するんだということがあったからか、動いていないんですね。と私はそういうふうに認識しています。

したがって、米坂線についての要望というのは、もう本来であれば令和4年度、5年度、6年度と3回ぐらいしなきゃいけないのですが、一回も声がかからないという状況でありますので、その実態を市議会、あるいは関係する町の町議会などと連携して、どういうふうになっているか、その辺のところをどう動いていったらいいか、そろそろ、もう3年目になっていますので、その辺のところを、これ、整理しなきゃいけないし、我々もこの進め方、非常に難しい

ので、小国町さん、あるいは県のほうは一生懸命動いていただいていますので、何とも非難したりすることはもちろんできないわけで、応援、手伝い、何を手伝ったらいいか、そういったことすら、残念ながら要望があったときに会議に参加する、あるいは要請があったとき、そういう祭りの協力をさせてもらおうとか、そういった状況でございます。

次に、(2)の米坂線の復旧検討会議での各自治体の反応、意見はどうかということですので、今申し上げましたように、実は1回だけ昨年の12月に、吉村知事が置賜3市5町の置賜広域事務組合の理事会の後にいらして、ちょっと意見交換しましょうと。その際は、米坂線のことではないです、何でもいいので意見交換しましょうといったときに、小国町長が当然米坂線の期成同盟会の会長ですから、その話をしたときに、では、各市町でそのことを申し上げたのですが、関係するところですね。ですから、その後、飯豊と私と、川西は言わなかったかな、米沢も言わなかったと思います。言ったんですが、まだ時期尚早だというふうにその当時は知事はおっしゃったのです。もう地元負担も覚悟しながらも、早くしなきゃいけないのではないかと。ただ、当時はまだ情報がはっきり方向性が定まっていなかったことから、飯豊町長さん、前のですね、ちょっと早くしなきゃいけないのではないかと。だから、我々負担も覚悟しているので、ぜひ県のほうも進めていただきたいというお話がありました。それに対して知事のほうは、まだちょっと時期尚早ではないかというようなお話でした。それから1年たってここまで進展したわけですので、そういう状況でございます。

ですから、これから、昨日も鈴木一則議員にも申し上げたのですが、まずは沿線の山形県側の2市3町でどうするかと。我々からすれば、今泉、小国経由で坂町までとにかく復旧しない

と、いずれ今泉一米沢間も廃止になるというのは見えているわけですから、我々としてはそちらが一番困るわけですね。今泉から坂町間は小国町、飯豊町、それから関川村が、まあいいやということであれば、それでいいんでしょうけれども、我々はそうなると、今泉一米沢間だけは別ですなんてならないわけで、これ、当然の話になりますので、そこを考えると、私もそろそろ黙ってられないということで、昨日、鈴木一則議員のほうからの質問で、本音の部分ですね。

ただ、県とフラワー長井線の沿線のほうの首長とも、この件も話していませんし、もう話せる段階ではないんですね。ただ、それですと時間だけ経過するもので、今泉議員おっしゃるとおり、どうなっているんだと、ちゃんと意見交換して、必要なものは国に要望するなり、あるいは議会に説明して議会からも協力いただくべきではないかと、ごもっともだと思いますので、今後、その辺は、ちょっと腹を割って、まずは沿線、そして置賜3市5町でも応援しようという機運がありますので、話し合いをしながら前に進めていくように、微力ながら全力を尽くしたいと思います。

続きまして、2点目の長井市民体育館の改修についてですが、これは今泉議員から再三にわたって議会の議場でも要望等々ございました。あと、利用者の方には大変ご不便な状況にして放置して、大変申し訳なく思っております。

以前に雨漏りするという話は10年以上前、財政再建中でありましたけれども、まずそれはほっとけないから、とにかく早急に必要なものを、まず最低限の経費でもかけてやろうとしたのですが、一回やったはずなんです。ところがそれでも雨漏り続くということで、ちょっとこれはもう全体直さなきゃいけないんだということになって、そうしますと経費が半端ではないわけですね。財源が支援はゼロなんです、だから単

独でやらなきゃいけない。財政再建中でしたし、これが終わってからということで、まずは何とか我慢をお願いしていて、大変申し訳なかったと思っています。

実はほかにもそういう例がございまして、特に西根の体育館、平野の体育館からも、同じように十数年前から雨漏りがする、床がもう抜けそうとか、そういったことで要望があって、そこは長井市のおそのの体育館と違って、旧小学校の体育館を使っていたんです。ですから、早く新築してくれと、改築してくれと随分要望がありました。ただ、長井市にはこれだけいろんな宿題があって、なおかつ、もう何十年も放置されているんだと。だから、財政再建明けたら、まず必要な、より多くの市民全体の皆さんが必要な施設からせざるを得ないということで、西根については屋根を1,000万円ぐらいで直して、そしてその後、これ以上補修はできないと。ですから、そのときは西根の体育館の使用を中止せざるを得ないので、よろしく願いますと。ただし、必ず小学校の改築とか、地区公民館ですね、当時、改築せざるを得ないときに、何とかその部分を財源を見つけて造りたいと思いますのでお待ちくださいということで今に至っています。

西根はまだ使えているんですが、平野は床が落ちるということだったんですが、それはさすがに床を張り直すというのは、もうはりから替えなきゃいけないので、それは平野の皆さんと話して置賜生涯学習プラザの体育館を使えるので、何とか、あと平野小学校の体育館を使いながら我慢しようということで今日に至っています。

この中央地区の皆さんが主に使ってらっしゃる、かつては勤労青少年ホームでしたから、若い人たちも使っておられたんですけども、ここについても、なかなか財源が見つけられないと。先に学習プラザのほうを今年度、改修させ

てもらいました。市民体育館も2階なものですから、屋根をやる時はずっと足場、高い足場作んなきゃいけないんです。学習プラザのほう、ウン億円でした。すごい多くお金かかります。ただ、まだ物価高騰が途中だったので、今やったら恐らく、多分ね、屋根の改修だけで済まないはずなんです。改築しないであのままといったら、あの施設は非常に使い勝手いいと思っています。ですから、エアコンも入れなきゃいけないと。それから傷んでいるところを、屋根をやるということは、同時に外壁なんかでもできまじ、あと床なんかはそんなに傷んでないと思うんですが、私も見に行っています。雨降ったときの状況も、ちょっと前ですけどね、四、五年前ですけども、分かっていますので、いや、本当に迷惑かけているなと思っていますので、その辺のところは次期の令和8年からの公共施設等整備計画の中で改修するか、もしくは先ほど金子議員のほうからありましたように、「くるんと」の隣の旧協同薬品さんの借地、かなり6,000坪もあるんですね。ですから、その中で体育館として利用できるようなものが、いい財源を見つけて造ることができれば、そちらのほうがよくないかと思えますし、その辺もコミュニティセンターとの連動もありますので、ちょっとここは、とにかく令和8年からの10年間で、できるだけ早めに前期で改修するか、もしくは改築するかとか、新築するかとか、そういったところを決めていかなきゃいけないと思っていますので、大変申し訳ございません、改めて管理していただいているふらりの皆さんにもおわびを申し上げながら、今後のことについてちょっとお話をしなきゃいけないなと思っていますので、ぜひ引き続きいろいろご意見などをいただければと思います。そんなことで、大変恐縮でございますが、ご理解いただきたいと思っています。

○鈴木富美子議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 米坂線のほうの

(2)、追加で説明させていただきます。

当日、会議のほう、私、出席しましたので、その4回目の会議のところ、簡単にちょっと報告させていただきますと、会議におきましては、J R 東日本側のほうから説明がございまして、まず、17億円という話が出る前の前段の説明といたしまして、被災前、2019年度の米坂線の運行経費と収入の内訳、それぞれ説明がございました。あと、米坂線の鉄道施設の概要ということで、山間部が多い路線ですので、トンネル、あと橋梁がとても多いと。あと現施設の老朽化であったり雪対策、あと倒木とか、そういった維持管理に係るコスト、工事費の動向等、なかなか大変だという説明がまずございまして、あわせて、災害復旧で86億円という数字出ていますけれども、そこには物価高騰部分も入っていないということでございます。あと代行バスの利用状況などについても、その会議の中で説明あったところでございます。

あとは第3回目に提示あった4つのパターン、復旧のパターン、運営パターンですけれども、その内容、詳細ですね、説明がございまして、まず、1つ目のJ R の単独の運営のパターンについては、鉄道事業者としては、鉄道の特性、大量性が発揮できるような状況は見込めないというところがあって、まずパターンの4つに入っていますけれども、J R 単独運営を前提とした復旧は難しいというところがございます。ただ、我々といたしましては、自治体負担がありませんので、基本的にはJ R 単独復旧ということで、まず要望は上げている状況でございます。

上下分離につきましては、試算についてはJ R 東日本の2019年度の米坂線の今泉一坂町間の部分の地上設備に関する費用、上下分離の下の部分でございまして、その費用をベースに災害時の安全に関するソフト対策、例えばセンサーをつけたり、そういったソフト対策を盛

り込んだり、あと事務所経費、上下分離したときの第三種鉄道事業者ということになりますので、そういった事務所経費も、運営費用も盛り込んで積算したということと、復旧から10年間、2031年から2040年を想定して、近年の物価等の動向も見越した額として試算されたということで、それで示された金額が17億円ということで、これは10年間の平均の金額となります。

また、この費用につきましては、大規模な災害であったり、トンネル等の大規模修繕、改修等は含まれておりませんし、あと利用促進や宣伝広告に係る費用も含まれていない状況ですので、そういった費用も加算すれば、さらに負担額というのは大きくなる見込みがあると思われ

ます。そのほかのパターン、第三セクターとバス転換については、J R 側で今現在、十分な知見を持ち合わせていないというところで、具体的な運用費の提示はなかったところで、今のところ上下分離だけ17億円というところで提示あったところでございます。

あと、その意見ですね、市町村から出た意見ということだったのでございますけれども、基本的にはJ R 単独復旧、運行というのを、我々、要望しているところでございますけれども、早期の鉄道復旧を考えますと、上下分離も検討が必要という声もありました。毎年経常的に発生する費用として、年間17億円というのは大変重い負担となるという意見でございます。復旧するにしても、あらゆる財源を検討していく必要があるという意見も出ておりました。状況としてはそんなところでございます。

質問の中に長井市の負担が幾らになるのかというところと、今後どのように進めていくかというところでございますけれども、まず、このたび示されました地元負担額について、年間17億円につきましては、自治体側でも内容を精査する必要があると考えています。今回、J R 側

の説明でございましたが、我々のほうも金額の妥当性というのを確認する必要があると考えております。

具体的に長井市の負担が幾らになるかというところがございますが、そういった調整について、またこれからになりますので、今の段階では全く幾らになるかというのは分からない状況です。新潟、山形両県のほうと、あと沿線、もしくは置賜の自治体のほうと調整しながら、これから具体的な数字が出てくるものと考えます。

今後の進め方でございますが、JR側から説明があって、ボールは我々のほうに来ていますので、その調整については県の総合交通政策課のほうで窓口になって、これから調整する、これから調整していくという段階でございます。米坂線につきましては以上でございます。

あと、もう一つ、問2の長井市民体育館の改修についてというところで、緊急性が必要と考えるが、どこから、どのようにいつから改修するのかというところがございます。

施設につきましては、市長から申し上げましたとおり、大規模な改修や施設の将来の在り方も含めまして、次期の公共施設等整備計画、令和8年からの10年間の計画の中で、盛り込む形で今後検討を進めてまいります。

市民体育館を含む交流センターふらり、中央コミュニティセンターにつきましては、近年、排水設備の修繕、施設の電気機器の交換、トイレのポンプ交換など、数十万円から100万円単位の修繕作業が発生しているような状況でございます。昨年度につきましては、体育館内の内壁のパネルが落下するなどいたしまして、安全な施設利用に支障の出る事態も発生しておりますので、そういった際には早急に対応させていただいているところでございます。

雨漏りにつきましては、現在既に利用に当たって支障が出ている状況もあると存じますが、施設利用に当たっての安全性を確保しながら、

引き続き利用いただけるような環境整備に努めてまいりたいと考えております。

あと、大きな課題といたしましては、照明のほうも大分点灯がつかない照明ございますので、そういったところも状況を確認しながら対応を検討してまいりたいと思います。

利用団体からのコミュニティセンターへの要望、ご意見も頂戴している状況のようですので、そちらのほう、調整しながら、随時必要な修繕等を行いながら、利用者がけがをしたりすることのないよう、指定管理者である長井市コミュニティ協議会とも連携を取りながら安全の確保に努めてまいります。

○鈴木富美子議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 市長のほうからも、担当課長のほうからも細かく説明いただきました。

まず、米坂線の件でございますが、市長もいろいろと昨日の鈴木議員の質問にもお答えしているとおり、様々、本当に、まずちょっと一歩というか、議論が始まったかなというような状況だと思うんです。本当にこれからということなのですけれども、非常に財政的なことがあって、復旧したとしても、その後の運行というんですか、運営というんですか、それが非常に自治体に負担もかかって大変だということなのですけれども、まず復旧をするということが一つのあれです、大臣も必ず復旧しますということを私たち共産党の国会議員などにも、きちっとそこは約束してくださっていますので、まず国において復旧するというのと、それから運営、先の話ですけれども、どういう方法になるか、上下分離方式になるか、JR単独は難しいかと思っておりますけれども、どういう運営方法になるかによって、その運営資金というのも国に求めていくということも大事かと思っております。

その点で、ちょっと昨日、国会で、午後でしたけれども、ビデオも撮っておりましたので、後で見たのですけれども、小国町の参議院議員

が、被災を受けたときの鉄道の復旧、国の支援について石破総理に質問をしておりました。その中で、鉄道ということを言っていますけれども、私は、米坂線とは言っておりましたが、米坂線のことも頭にあるのかなと思ってその質問を聞いたところでした。そういう思いもあったのかなと思っております。質問では、鉄道は公共性が高いのに、民間が運営しているわけですから、災害時に国の支援が受けられない、予算がつかないというようなことを言っておりました。そして大事なことは、採算性だけで論じるものではないとし、国が積極的に関わり、収益だけではなく、公共性を指すものと話されておりました。ここが非常に大事ではないかなと。各自治体でも、このことを国に要望するということが大事ではないかなと、簡単なことではないと思いますけれども、そこが大事ではないかなと感じました。

先ほどの質問でも申し上げましたが、関係自治体が連携して、地元議員、もちろんね、参議院議員の今回質問した地元議員とか、また、もう一人の議員さん、復興副大臣におなりになりましたので、そういう方への働きかけなども重要ではないかなと思います。本当にこれからだと思えます。米坂線ということで市長が、今日の山形新聞にも出ておりましたが、市長が心配するように、米沢—今泉間も米坂線という意味では、廃止となれば、その部分もなくなるのではないかなという心配もあるわけですね。そうすると、子供の通学とか、新幹線とか利用するためにも、非常に市民の方、また生活のために利用するそういう鉄道ということでも、非常に不便になってしまいます。皆さん、車があるからといっても、高齢者になれば免許は返納してしまいますので、そういう鉄道ということは非常に大事で、今、バスも直接米沢なんて行っていませんから、鉄道しかありませんので、そういうところに視点を置いて、今後進めていただ

きたいなと思っております。

本当にちょっと一歩というか、少し進んだかなと、動きが見えたかなというような状況ですので、歯がゆいところもありますけれども、市長のいろんな思いもありますけれども、ぜひ長井市としてもこのことを発信していただければなと思っております。

昨日の市長の答弁が山形新聞に大きく今日、記事として、米坂線、今泉と米沢の間の米坂線というのが廃止というか、なくなってしまうのではないかと心配というようなことの市長のお話が記事として載っておりました。自治体としてそういうものを発信していくということは、非常にいろんなところで、関係自治体もそうですけれども、県民、市民、町民にいろいろ影響するというか、いい意味で影響するのではないかなと思っておりますので、引き続きその点、頑張っていただきたいと思えます。

市長のお話を聞きますと、自治体の連携が不足しているというようなことでございますが、ぜひ長井市からも頑張ってお呼びかけをしていただきたいと思えます。一言市長、感想など、お願いしたいと思えます。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 今泉議員からは、おっしゃるとおり、大変ありがたいご助言いただきました。もちろん舟山参議院議員、それから鈴木憲和副大臣のほうには、会うたびにこの話もしております。ただ、長井市単独で国に行けないんです。行くときはきちんと要望書、これは長井市単独で要望書作れないわけですので、したがって、一度国交大臣のほうに小国町長、あるいは知事が要望して、ちゃんと返事をいただいているということなので、私どもは次の形として何か、私ども、沿線で働きかけて、引き続きまた違った角度からの要望等々はできるだけ早くやっていかなきゃいけないと思えますので、その辺は小国町さん、あるいは米沢市、川西町のほうに

も働きかけて、ちょっと相談してみたいと思います。ありがとうございます。

○鈴木富美子議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 いろいろとご苦労おありになると思いますけれども、ぜひ長い目で見て頑張っていたきたいと思います。よろしく願いいたします。

次に、市民体育館の雨漏りについてですけれども、市長のほうからは、令和8年度からの次期計画の中、10年間で考えるというようなお話でしたけれども、あと丸1年ちょっと、計画を策定するまでには1年、2年近くあるわけですので、それまで体育館の雨漏りがそのままという、ちょっとどうなのかなと。応急手当てみたいなのはないのかなと、非常に心配するところですが、応急手当てといっても大きな金額がかかるのではないのかなと。前に私たちが使っているときに、体育館の雨漏りを調査するというようなことで、あのとき500万円ぐらいで少し修理もなさったのかどうか、屋根裏にずっとはしごを長い間設置して、調査なさったようですが、結果的にはどこから雨漏りするか、あの広い大きな体育館の屋根でするので、分からなかったというような報告を受けたところでした。調査するにも、そのぐらいの大きな金額がかかるのかなと思って、ちょっとそのときはどうなのかなという感じを受けたところでしたので、まずその体育館の照明ということで半分ぐらい切れていると、そこをまず予算をつけていただきたいなと思いますけれども、その点、どうでしょうね、市長でよろしいでしょうか。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 本当に今泉議員おっしゃるのはよく分かりますし、本当に利用者の方にも申し訳ないのですが、かつて長井小学校の旧体育館も雨漏りするということで、何回も何回も調査したんです、あと応急処置しても、同じように

駄目なんです。結局長井小学校の体育館については、改築ということで解決せざるを得なかったと。

今回の置賜生涯学習プラザについても、あれは実は照明が同じように半分近く切れているところがあるので、足場をざっと組まなきゃいけないんですよ。それと、あと雨漏りがあるということで、恐らく3億円ぐらいかかったのだった、3億円ぐらいかけて屋根と照明の、LEDに変えたということだったんですが、非常に屋根とか天井の照明を替えるというのは、それまでの準備とかでお金がかかって、では照明だけ替えるかというので、まあ50万円、100万円ぐらいでしたら、それは何とか来年さんなねなんて言えるのですが、ちょっと桁違ってくるもんですから、議員もご存じかと思いますが、長井市の今の財政状況の中だと、特に庁舎も、あるいは様々な病院も含めて、いろんなものをどうしても集中的にやらざるを得ませんでした。それだけ有利なやり方ということでやったのですが、その返済で令和5年、昨年度あたりから、令和9年度あたりぐらいまでがちょっと厳しいと。実質公債費比率の、今、起債すると、その部分がぐんと上がるんですね。ですから、それをできるだけ抑えなきゃいけないということですから、本来であれば次期計画を待たずに、ではそこだけ何とかやろうかと、それが1,000万円、2,000万円ぐらいだったら何とか財政課のほうに、まずほかのところを少し削ってでもこれをやろうと言えるのですが、恐らくそれでは済まないの、したがって、まずは指定管理いただいている中央コミュニティセンターと相談したり、あとは再度、建設課のほうとも相談しながら、とにかく応急措置として何かいい方法はないか、改めて検討させていただきます。ただ、それでもできなかったときは、基本的には次期の計画で、できるだけ前期に行うようなことで、まずは、ご不便をおかけします

けれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。
そういった市民の方にも状況を教えていただければと思ひます。大変申し訳ございません。

○鈴木富美子議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 事情は重々承知しておりますので、計画があるということで、市民にお示しただければ、市民の方も、ちょっとその間も我慢ができるかなと思ひます。

それで、担当課長にお聞きしますけれども、体育館、非常に大変なときに、何か代替の体育館とかいうようなものが、生涯学習プラザを使えばいいんですけれども、いろいろ向こうも予定もたくさんあって、いろんな団体も使っておりますから、何か小学校とか中学校とか利用できるようなものもあれば、ちょっとあれかなと、使ってらっしゃる方も助かるかなというよ
うな思ひがありますので、そのようなお考えはいかがでしょうか。

○鈴木富美子議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 体育館でいいますと、例えば日中であれば、例えば近くに長井小学校の体育館がありますので、今、スクール・コミュニティーという考えもありますので、学校のほうと連携しながら、ちょっとまたこれから調整なんですけれども、そういった空いた時間に、例えば中央コミセンの体育館を使っている団体が一部利用するだとかということもできると思ひますので、ちょっとその辺はこれから調整させていただきます。

○鈴木富美子議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 いろいろ工夫をしてどうか、利用者の利便性も考えていただいて、対処していただきたいと思ひます。

今日の質問はこれで終わります。よろしくお願ひいたします。

○鈴木富美子議長 ここで暫時休憩いたします。
再開は午後1時といたします。

午前11時50分 休憩

午後 1時00分 再開

○鈴木富美子議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

なお、竹田陽一議員においては、質問席で着席のまま一括質問を行うことを許可いたしましたのでご報告いたします。

竹田陽一議員の質問

○鈴木富美子議長 順位8番、議席番号8番、竹田陽一議員。

○8番 竹田陽一議員 共創長井の竹田陽一です。よろしくお願ひします。

私の事情において、皆さんからご高配をいただきまして、大変感謝を申し上げます。着席のまま質問させていただきますので、よろしくお願ひします。

農業、農村が、今、厳しい状況にあります。社会全体が高齢化と人口減少という中にあるわけですけれども、特に農村においては農家がめっきりと減っているような状況があります。そういう中で、農地をどうつないでいくのか、今、地域農業の未来を考える地域計画の作成が進められているところです。私たちの食を支えているのは、美しい農山漁村です。その基盤となるのが農地であります。適正に管理された農地は食料を生産する場以外に様々な機能があります。

例えば、雨水を一時的に農地にためることで、川の水位の上昇を緩やかにし、下流の市街地の浸水防止に役立つという機能があります。また、